

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	千葉県
-------	-----

I. 学校の概要 (平成15年4月現在)

茂原市立茂原小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	21
児童数	52	75	59	50	61	58	4	359	

II. 研究の概要

1. 研究主題

一人一人を生かし生きる力を育てる学びの創造
 ———— 確かな学力の向上に向けて ————

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数
 ・子どもの理解度に差が出やすい教科であるため
 3年生以上・総合的な学習
 ・発展的な学力を育成するため算数科との関連を深めた総合的な学習の実践

(2) 年次計画

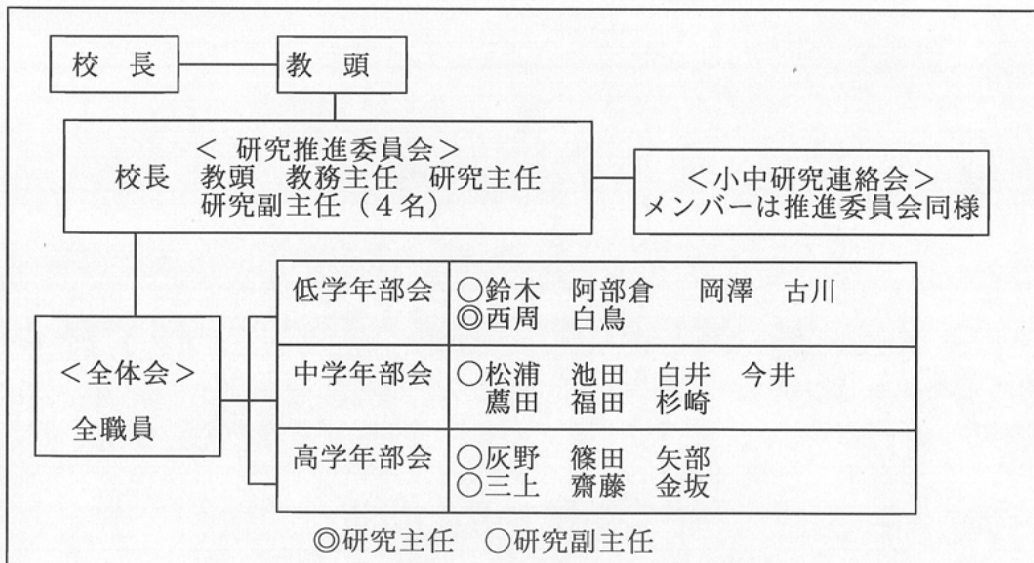
平成14年度	○テーマ	一人一人を生かし生きる力を育てる学びの創造 ———— 算数科の学習を通して ————
	○仮説	① 児童の興味・関心、習熟の程度に応じ、柔軟な活動計画や学習課程を工夫し、少人数により学習を支援していけば、学習意欲が高まり、一人一人を生かした学習が成立するであろう。 ② 児童理解に基づく個人差の把握を十分に行い、それに即した教材の工夫や開発をすれば、自ら学び自ら考える学習を進めることができるであろう。
平成15年度	○研究内容・方法	① 発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材の工夫や開発 ・ 算数科を中心とした、習熟度別指導による教材開発 ・ 全学年算数科の少人数指導による基礎・基本の定着 ② 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ・ きめ細かな指導を目指す、少人数指導の確立 ・ 小・中教員の授業交流による指導方法の改善 ③ 小・中学校と地域との連携を図り、より体験的な学びの場づくり ④ 計算力テストによる児童の学力の実態調査の集計・データベース化

平成15年度	○テーマ	一人一人を生かし生きる力を育てる学びの創造 ———— 確かな学力の向上に向けて ————
	○仮説	① 児童の興味・関心、習熟の程度に応じ、柔軟な活動計画や学習課程を工夫し、少人数により学習を支援していけば、学習意欲が高まり、一人一人を生かした学習が成立するであろう。 ② 児童理解に基づく個人差の把握を十分に行い、それに即した教材の工夫や開発をすれば、自ら学び自ら考える学習を進めることができるであろう。
平成15年度	○研究内容・方法	① 発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材の工夫や開発 ・ 算数科を中心とした、習熟度別指導による教材開発

- ・ 全学年算数科の少人数指導による基礎・基本の定着
- ② 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
 - ・ きめ細かな指導を目指す、少人数指導の確立
 - ・ 小・中教員の授業交流による指導方法の改善
- ③ 小・中学校と地域との連携を図り、より体験的な学びの場づくりをする。
- ④ 計算力テストによる児童の学力の実態調査の集計・データベース化
 - ・ 平成14年度と比較した児童の計算力追跡調査
- *本年度追加
 - ⑤ 算数科と関連のある総合的な学習の時間の計画と実践
 - ・ 生活に生かせる確かな学力を育成するため、算数科との関連を深めた総合的な学習の時間の実践をする。

- 平成16年度
- テーマ 一人一人を生かし生きる力を育てる学びの創造
—— 確かな学力の向上に向けて ——
 - 仮説
 - ① 児童の興味・関心、習熟の程度に応じ、柔軟な活動計画や学習課程を工夫し、少人数により学習を支援していけば、学習意欲が高まり、一人一人を生かした学習が成立するであろう。
 - ② 児童理解に基づく個人差の把握を十分に行い、それに即した教材の工夫や開発をすれば、自ら学び自ら考える学習を進めることができるであろう。
 - 研究内容・方法
 - ① 発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材の工夫や開発
 - ・ 算数科を中心とした、習熟度別指導による教材開発
 - ・ 全学年算数科の少人数指導による基礎・基本の定着
 - ② 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
 - ・ きめ細かな指導を目指す少人数指導の確立
 - ・ 小・中教員の授業交流による指導方法の改善
 - ・ 問題解決学習の過程の定着と考える力の育成
 - ③ 小・中学校と地域との連携を図り、より体験的な学びの場づくり
 - ④ 算数科と関連のある総合的な学習の計画と実践
 - ・ 生活に生きる確かな学力の育成
 - ⑤ 計算力テストにおける児童の学力の追跡調査による3年間の推移のまとめ

(3) 研究推進体制



Ⅲ. 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

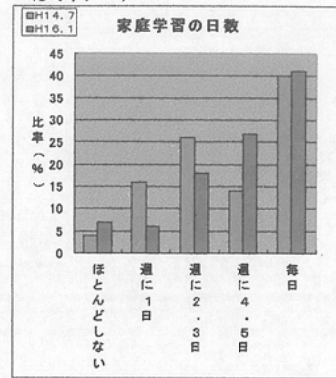
本校は、層的な学力観の基に「教材の工夫や開発」「指導方法や指導体制の工夫改善」の研究を進めてきた。昨年度は、計算力テストの結果の比較から、基礎的な学力の確かな定着が成果として見られた。また自己評価の推移からは、少人数学習での高い理解度を推測することができた。本年度も引き続き計算力テストと自己評価を行っているが、同等の結果が得られた。

本年度は、5・6年生対象の意識調査（■H14.7 ■H16.1 実施）から、学習への意欲や家庭学習の習慣化について考察する。（資料1）は、「ふだん家でどのくらい勉強しますか。（学習塾や家庭教師は除く）」の問いに答えた結果である。週に4・5日と答えた児童が、14%から27%に増加している。わずかではあるが、毎日するという項目でも増加が見られた。学習塾や家庭教師との学習を除いた数値結果から、70%の児童が、ほぼ毎日学習するようになったと言える。同様のことが、

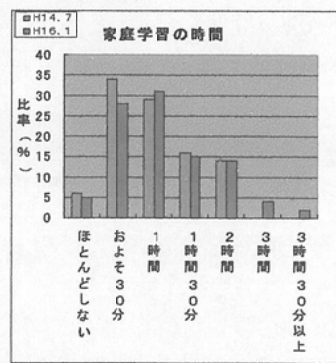
（資料2）の家庭学習の時間の調査からも伺える。「家に帰ってから何時間ぐらい勉強するか」の問いにおいて、学習塾での時間も含めてではあるが、前回「およそ30分」が最も多かったのに対して、今回は「1時間」と答えた児童が多くなっている。以上のことから、家庭での学習が習慣化しつつあると考えられる。

今回新たに加えた調査項目の中に、児童の学習への意識を伺えるものがあった。「算数の計算問題を間違えずにできるようになりたいと感じることがあるか。」の問いでは、「よくある」が60%、「ときどきある」が35%で、合わせて95%の児童が、計算が正しくできるようになりたいと考えていることがわかった。これらのことから、計算ができるようになりたいという児童の思いが学習への意欲を引き出し、家庭学習の習慣化につながったと考察できる。

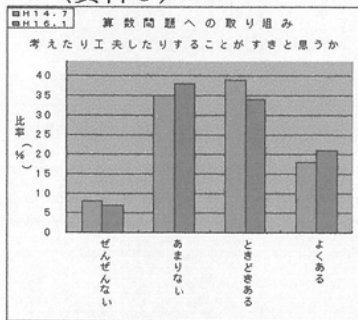
（資料1）



（資料2）



（資料3）



その他の成果としては、次の3点が上げられる。

- ① 昨年度より少人数指導・習熟度別学習を実践し、学習形態に児童も教師も慣れてきて、スムーズに授業を進めることができた。
- ② 実践的な学力を身につけさせていくために、算数科と関連を図った「総合的な学習の時間」の実践に取り組むことができた。また、「総合的な学習の時間」を通して、中学校との交流も図ることができた。
- ③ 昨年度は計算力の向上を目標として取り組み、成果を上げてきた。今年度はさらに「考える力」の育成をめざし、問題解決学習の学習過程を取り入れ、児童自らが考えて学べる体制作りに取り組んだ。授業研究でも「数学的な見方・考え方」が問われる教材の工夫や開発を行い、回を重ねるごとに自分で考え解決していこうとする児童の姿が見られるようになった。

しかし、（資料3）に見られるように、「算数問題を解く時に、考えたり工夫したりすることが好きと感じるか。」の問いに対して、「あまりない」と答えた児童が前回の35%より3ポイント増えるなど、良い変化は見られなかった。

2. 今後の課題

- ① 層的な学力観の基に、3年間の研究の中で、1年目は基礎的な学力の育成、2年目は学習指導要領の中に示された基礎的な学力の育成、そして3年目として確かな学力としての実践的な力の完成をめざしている。学習場面としては、算数科や総合的な学習の時間で行うが、いずれにしても「課題を解決していこうとする力・考える力」の育成を抜きには考えられない。前述した（資料3）に見られるように、本校の児童は考えたり工夫したりする楽しさを十分に感じ取っていない状況である。考える楽しさが味わえるような教材の工夫や開発が求められている。
- ② 少人数指導の形態に児童も教師も慣れてきたが、担当者同士の連絡調整が日々の多忙の中で、なかなかうまくいかないのが現状である。合理的に行えるような時間と場の活用、少人数指導にこだわらない実態にあった学習形態の見直しと教師の意識改革が必要となるだろう。

IV. 学力把握のための学校の取組について

- 計算力テストの実施
(算数科【数と計算】系統表に基づき制作したものを全学年、年2回)
- 定期的な学力調査の実施(千葉県標準学力テスト 年1回)
- 自己評価カードの実施
(児童の学習後の自己評価を授業改善に生かす)

V. フロンティアスクールとしての成果の普及について

『平成14年度』	・ 研究紀要をデジタル記録したCD-Rを管内の小中学校(45校)に配布する。
『平成15年度』	・ 授業研究会の開催 日時 第1回 平成15年11月4日(火) 第2回 平成16年1月29日(木) 場所 茂原市立茂原小学校 対象 管内小中学校教員等 ・ 長生教育研究集会にて研究中間報告 平成15年9月30日(火) ・ 研究紀要をデジタル記録したCD-Rを管内の小中学校(45校)に配布する。
『平成16年度』	・ 公開授業研究会 日時 平成16年11月19日(金) 場所 茂原市立茂原小学校 対象 管内小学校教員等 ・ 研究紀要をデジタル記録したCD-Rを管内の小中学校(45校)に配布する。

◇ 次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無